



OHJIDAI MUNICIPALITY
30th Anniversary

大椎台自治会 30年のあゆみ



あれから30年の時が過ぎた…
足跡と懐旧の集大成がここに。



この街が好き 大椎台

自治会30年のあゆみ



ご挨拶 第31代自治会長 降旗 匡雄	1
大椎台団地の歴史	
I 大椎台団地の誕生	2
II 大椎台自治会の創設	5
III 大椎台の水 ～井戸と水道～	7
IV 大椎台自治会会館の完成	9
V 生活環境の変化 ～変わり行く土気～	11
VI 活発な自治活動	13
VII 公害防止活動	16
VIII 文化活動	19
IX 明日の大椎台 ～子供たちのふるさと～	21
資料	
・大椎台自治会歴代会長・副会長	22
・大椎台を支えて来られた方々	23
・大椎台自治会略年表	25

はじめに

縁あって大椎台の土地に落ち着いた全国各地からの人々が、いち早く共同生活体である自治会を作り上げ今日に至っています。

その間一年ごとの自治会役員、ブロック委員が交代で、また専門委員は継続的に心血を注いでこの町を発展させた足跡は誠に大きなものと思います。

この冊子はあたかも創立三十周年に当り、記念事業の実行委員会が過去の歴史を記録して、先人がどのような努力をしてきたか、そして将来何をしなければならないかを考える指針として作成いたしました。『一人は街の為に、街は一人の為に』の精神を、小冊子ではあるが、思い出を重ね合わせながら、目を通して頂ければ幸いです。なお、貴重な資料や懐かしい写真を提供して頂いた自治会員の方々、冊子を格調高く仕上げた宮坂印刷さんに厚く御礼を申し上げたいと思います。

大椎台自治会創立30周年記念事業実行委員会 編集委員一同

2004(平成16)年2月



ご挨拶

第31代 自治会長 降旗 匡雄

大椎台自治会が発足して30周年おめでとうございます。

1971(昭和46)年住生団地, 日生団地が造成を完了し, 1973(昭和48)年大椎台自治会が創立され, 今年30周年を迎えました。

この間, 隣地に大木戸団地, あすみが丘住宅ができ外房線の複線化, 快速電車の停車, 昔の停車場も近代化駅となり土気地区も大変革を遂げました。

大椎台の歴史を振り返って見ますと1000(長保2)年平忠常の子孫常兼が^{おおしい}大椎城に居城, 当時山辺郡大椎村は東に^{やさし}小食と土村, 西に大木戸村が隣接し, 北側は土気往還並木(旧名大椎街道)—内房(登戸)と外房(大綱)を結ぶ道—に接しており, (大椎村の旧字, 榊山, 榊, 榊中畑の地域が現在の大椎台) 明治30年^{やまべ}山辺郡と^{むさ}武射郡が合併, 山武郡となり, 昭和44年千葉市に合併しました。当自治会も30年の経過とともに歴代の自治会長始め各役員のご努力により立派に成長しました。

社会の変化に伴い, 自然環境の保全, 快適な生活環境の整備が今後の課題となっています, 「住みよい大椎台」「住んでよかった大椎台」そして「この街が好き大椎台」を目指して, この町を皆様とともに豊かに育ててゆきたいと願っています。

大椎台団地の歴史

I 大椎台団地の誕生

1971(昭和46)年8月、販売が始められる。当時は販売会社の違いにより、現『さわやか通り』を境に、千葉寄りが日生団地、大網側が住生団地〔一部を除く〕と呼ばれた。平均土地面積は165㎡(建物面積は73㎡)、価格は800万円程であった。

当時の住宅情報新聞「住宅新報；1972(昭和47)年11月4日付」の記事には、以下のようにある。

将来性のある土気

～まだ地価も比較的安く、将来性のある地域を中心に開発状況を紹介することにした。(中略)千葉市土気町。純農村地帯であるこの町は、いま房総東線の複線、電化計画で大きく変わろうとしている。完成すれば東京ー土気間が1時間たらずで結ばれる。それに加えて“緑”も豊富な土地柄。(中略)大手デベロッパーが目をつけ、南部の山間部を買いあさっている。3、4年後には、人口も現在の約5倍にあたる5万人を突破し、東京への通勤住宅地となることは間違いないようだ。



住生「すみらんど土気分譲地」カタログより

これが書き出して、本文記事は次のように始まる。

「ええ、もうビックリしているんですよ。あんなどうしようもないような山林をごそっと買うなんざあ、正気の沙汰とは思えないですよ。」と駅前の商店を営むある主人がつぶやいた。

千葉市土気町一。何の変哲もないこの田舎町に宅地開発の一波が押寄せたのは4、5年前からだ。(中略)土気町の総面積は約30平方キロメートルで板橋区と同じ程度の広さだ。うち約30%がすでに宅地

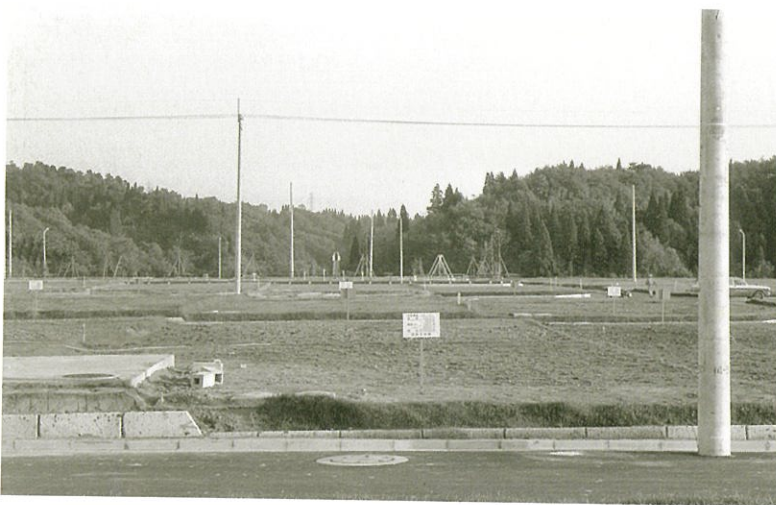
開発業者の手に収まったといわれている。いったい、どうして、にわかになんか注目されるようになったのか……。

と、地元不動産業者の声を聞いて、注目された背景を説明している。

複線・電化が実現したあかつきには、電車の本数もぐっとふえるとともに、東京ー土気間がいまより約30分も短縮され1時間で結ばれ、通勤圏がぐっと広がることになる。いま同線は1時間に1～2本の割合で、ディーゼルカーがノンビリ走っている。

「土気ー東京間がたったの1時間に……」最近、こんな業者の宣伝文句が功を奏してか、サラリーマンがマイホームを求めにやってくるのが目立って多くなってきた。(中略)「このごろ、東京のサラリーマン、おもに大手会社の会社員が中心ですが、土地を求めにくるケースが非常に多くなっています。現にウチのお客さんの場合、9割方はそんな人達ですね。それも30代の方が多いようで……」という。

これは、土気が都心への通勤圏として注目されている証拠ともいえる。



現在の大椎第三公園付近の造成風景(1971:昭和46年)

また記事では、周辺の開発状況にも触れ、東急が板倉・大椎・小山の三地区を中心に約220万㎡を開発し、12,500戸・入居者数43,000人を〔(1972～1976)昭和47～51年の間〕、また角栄建設が、越智地区に、約47万㎡、1,500戸・入居者数8,000人を〔1974(昭和49)年までに〕、そして竹中土木と住生土地でも、大椎・大木戸両地区で約25.5万㎡を造成、とある。(これが大椎台団地のことである)

さらには土地の高騰により町の中には、値上がり話に花が咲く近頃、といった話題や、土地買収にまつわり、農民の間で開発の是非について争いが持ち上がったこと、畜産・園芸に力を入れようとしていた矢先の宅地開発ラッシュで、地元の農家の生きる道を探っているという農協のコメント等も掲載されている。

一方、住民の中には、失われていく『緑』を惜しむ声も強い。そのため、千葉市は「緑の森を保全し、うるおいのある都市生活を」とうたった『昭和の森』を土気と大網白里との一部で建設中だ。180万平方メートルの敷地で、完成すれば市民のいこいと学習、研修の場となる。

いまは憩いの場となっている昭和の森が、宅地開発と対になってつくられた経緯がわかる。また、問題点として、『第一に水の確保』が提起されている。

「このまま人口がふえ続ければ、3年後には、給水限界量に達する。市では利根川、印旛沼からの取水を計画しているが、1975(昭和50)年以降にならないと水の確保のメドがつかない」

と、当時の土気地区市民センター所長のコメントを載せているのも、その後の大椎台において、水の確保・水道が大きな問題となったことを考え合わせると興味深い。

当時の販売カタログを見ると、当時の『大椎台』は、郊外の閑静な住宅地に、上下水道を完備した一戸建て住宅団地であった。

開発当初から下水道を完備した大椎台は、30有余年を経て、ごく身近に下水道開設の運動をせざるを得なかった住宅地があったことを考えると、『先進的』であったといえよう。

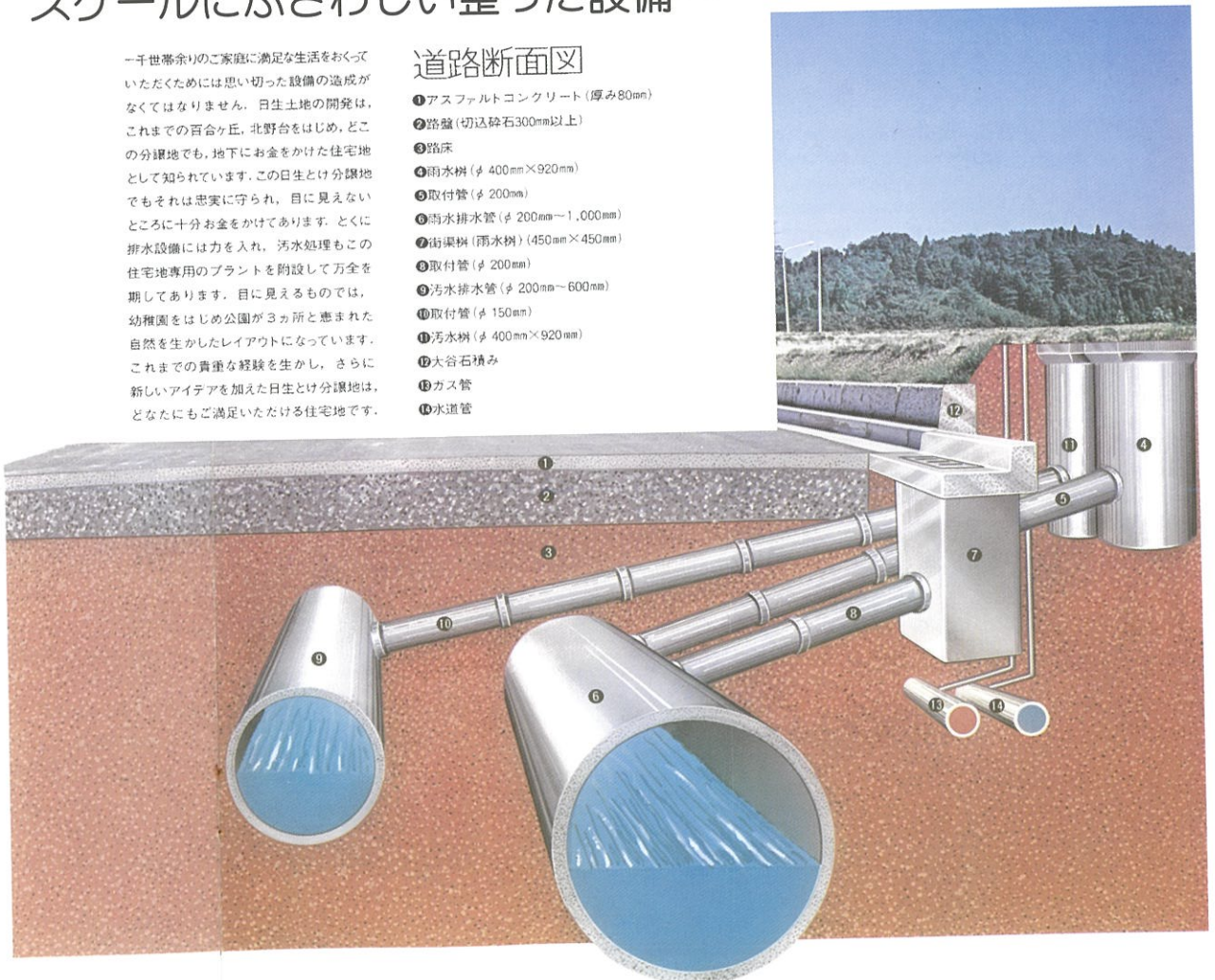
スケールにふさわしい整った設備一

日生「とけ分譲地」カタログ

一千世帯余りのご家庭に満足な生活をおくっていただくためには思い切った設備の造成がなくてはなりません。日生土地の開発は、これまでの百合ヶ丘、北野台をはじめ、どここの分譲地でも、地下にお金をかけた住宅地として知られています。この日生とけ分譲地でもそれは忠実に守られ、目に見えないところに十分お金をかけてあります。とくに排水設備には力を入れ、汚水処理もこの住宅地専用のプラントを附設して万全を期してあります。目に見えるものでは、幼稚園をはじめ公園が3カ所と恵まれた自然を生かしたレイアウトになっています。これまでの貴重な経験を生かし、さらに新しいアイデアを加えた日生とけ分譲地は、どなたにもご満足いただける住宅地です。

道路断面図

- ① アスファルトコンクリート(厚み80mm)
- ② 路盤(切込砕石300mm以上)
- ③ 路床
- ④ 雨水樹(φ 400mm×920mm)
- ⑤ 取付管(φ 200mm)
- ⑥ 汚水排水管(φ 200mm~1,000mm)
- ⑦ 街渠樹(雨水樹)(450mm×450mm)
- ⑧ 取付管(φ 200mm)
- ⑨ 汚水排水管(φ 200mm~600mm)
- ⑩ 取付管(φ 150mm)
- ⑪ 汚水樹(φ 400mm×920mm)
- ⑫ 大谷石積み
- ⑬ ガス管
- ⑭ 水道管



12mのメインストリートには、両側1.5mの歩道があります。

Ⅱ 大椎台自治会の創設

入居も順調に進み人口が増える中、住民の間からは水道問題や公園からの土砂の流出等、施設・環境への不満や苦情の聲がきかれるようになった。これらに組織的に対応するため6名の発起人により、自治会設立準備委員会が設けられた。



旧自治会集会場（1986：昭和61年）

やがてこれが大椎台自治会へと発展していくのである。

1973(昭和48)年4月、この時点では、まだ大椎台の名はなく、「日生・住生分譲住宅入居者自治会（仮称）」となっている。

そして5月に会長以下の役員が選出され、自治会の発足となった。当時の役職は、会長、副会長、会計監査のほか、交通通信対策部、管理組合対策部、生活対策部そして婦人委員であった。

活動は団地内の整備だけでなく、当時未整備であった土気駅からの大網街道の歩道やバス停留所、信号機そして街路灯等々、広範囲で多岐

にわたった。

団地周辺の整備には学校関係者およびPTA等の助力を得たが、ほかにも一自治会のみでは対応に苦慮する問題も多々あり、近隣自治会との連携および協力が必要との観点から、土気地区町内自治会連絡協議会（第23地区）に加盟することとなった。

ここに土気地区では16番目、千葉市では609番目の自治会である「大椎台自治会」が誕生した。

新しい自治会には新たな名称をつけることになり、住民から募集することになったが、「大椎ニュータウン」、「同グリーンヒル」、「ひばりが丘」、「緑ヶ丘」等の中から選ばれたのが「大椎台」であった。



大椎台自治会命名披露宴（1974：昭和49年）



団地へのバスの乗り入れ開始（1978：昭和53年）

バスに乗り切れない

1974(昭和49)年当時の入居世帯は約200戸で、小・中学生も多い若い街であった。大木戸小学校、越智中学校はまだなく、子どもたちは定期バスを利用して土気小学校と土気中学校に通学していた。しかし、下校が集中する時には満員で、バスに乗り切れないこともあった。これを何とか改善しようとバス会社をはじめ警察等に折衝した結果、便が増発されることになった。

すすむ道路整備

当時の大網街道は、車両の通行も激しい中、歩道がないため、大きな問題となった。関係者の尽力で歩道の設置工事が1974(昭和49)年から始まり、土気地区の開発とともに約10年にわたって道路が整備されていくことになる。

なお、現在の団地入り口の信号機は1973(昭和48)年に設置されたものである。



大網街道 土気駅方面から郵便局方面をのぞむ
(1987：昭和62年)



大椎第一公園造成風景 10ブロックから大網街道方向をのぞむ
(1975：昭和50年)

起伏にとんだ公園

大椎第一公園は土地が2段になっているばかりか、普通の公園とはちょっと違った起伏にとんだ形状で、子どもたちにとっては楽しい遊び場となっている。現在でも、そこそこの雨が降ると出入り口の階段には滝のように水が流れているが、それでも造成当初は公園の土も流れ出していたことを考えると、整地がかなり進んだといえる。

Ⅲ 大椎台の水～井戸と水道～

大椎台の歴史と発展を考えるとときに、水(上下水道)については切り離せない。造成時から先進的な上下水道を完備した設計であったこと、さらには、より完璧な水供給をはかるために団地内の井戸から専用水道を引き、下水道とともに管理組合で自主的に運営をしてきたこと、そして地下水の枯渇とともに、施設の老朽化を考え、全戸の了承を得て千葉市水道を導入したことで不安を解消するにいたった。さらには不要となった污水处理場が現在の自治会館に生まれ変わったこと等、大椎台自治会の歴史的な区切りには、いつも『水』が関係している。

箇条書きにすればこれだけのことであるが、そこには人々が暮らす・生活のなかで必須の『水』を、安定して確保するというあたりまえのこのために、実に多くの人の知恵と力と協力とが結集されたのである。

こうした事業は全戸的なものであり、住民の理解と協力がなければ完遂し得ないものである。大椎台団地および自治会の歴史は、水確保の歴史といっても過言ではなかったのである。



19ブロックにあったポンプ場（1987：昭和62年）

その都度、委員は設備を点検し、役員は広報車を出した。

水道を担当していた管理組合では、日々、各世帯の苦情の対応や水道工事店との折衝に追われ、役員にとってまさに盆も正月も無い状態であった。

「ご存知のように大椎台は、大網街道からずっとくだってくるような地形になっています。つまり、団地の南北両端で土地の高低差があるわけで、それが水の出方の差にも表れていたのです。下の方の井戸でくみ上げた水が、上のほうの家には届かないわけです。だから団地の下の方では水が出ても、上では一滴も出ないということがよくありました。」

「上で、さあ、断水だ。困った。と、下に住んでいる役員の家に電話をかけたら、今、風呂に入っています。なんて言われて、怒り心頭！で、慌てて風呂を出た、なんて話が残っています……。」

水が出ない！

当時あった土気地区の水道では、団地内の水需要には対応できないことが予測され、1971(昭和46)年の販売当初から2本の井戸が掘られ、給水されることになっていた。しかしそれも、人口の増加、消費量の増大とともについに地下水の枯渇の危機に見舞われることになった。1983(昭和58)年のことである。あわせて施設の老朽化による漏水や水質の悪化等、次々と難題が押寄せてきた。

当時の各世帯では断水が相次いだ。

と、当時の役員は語っている。

その後、更なる井戸の増設等を行い、対処してはきたものの、ますますの状況悪化に現状での改善も限界となり、1987(昭和62)年ついに団地内簡易水道を廃止し、千葉市水道の導入を決議するに至ったのである。しかし、その実現に至るまでの道のりは決して平坦なものではなかった。全戸の同意と工事負担金の徴収は容易ではなく、遠くの不在地主との連絡に多くの時間を費やすこともあった。そして上下水道対策委員会の設置から8年を経てようやく、1991(平成3)年に全工事を完了したのである。



下水処理施設 現在の自治会館敷地（1985：昭和60年）

～下水道の移管～

上水道の問題が一段落した後に浮上したのが、下水道の問題であった。

大椎台団地は造成時からあらかじめ下水道が設置された、当時としては先進的なつくりであった。

しかし、それも月日が流れるとともに設備も老朽化し、ほころびが見受けられるようになって来た。

下水道も1995(平成7)年、千葉市に正式移管するにあたって、市の調査を受けたところ、多数の本管の亀裂や下水管と雨水管の誤接続が発見された。

下水道にも異常!?

団地内の下水道は、1989(平成元)年に千葉市下水道に接続されてはいたものの、市への正式な移管は未だされていない状態であった。改めて調査され、事務手続き上の問題とそれに伴う多数の修繕に関する費用の問題とが浮上することになったのである。

異常箇所は

1. 本管（TVカメラ調査）
 - 1) 浸入水：1箇所
 - 2) クラック：48箇所
 - 3) 破損：48箇所
2. 排水設備（宅地内の個人管理排水管及び公設柵）
 - 1) 雨水→污水管の誤接続：60戸（104箇所）
 - 2) 污水→雨水管の誤接続：15戸（34箇所）

にのぼった。これにより、雨が降ると誤接続された配管を通り、污水管の流量がふえるという事態がひきおこされていた。

早速、自治会に下水道対策委員会が設置され、千葉市下水道部との度重なる折衝のなかで、本・支管は市で、各家庭宅地内の誤接続の修繕は各戸の負担で修繕を行うということになった。突然の事態の変化と負担に見舞われた各会員は、戸惑いながらも説明に納得し、一年半の後には全戸の工事を終え無事に千葉市下水道への移管を終えたのであった。

Ⅳ 大椎台自治会会館の完成



右が旧大椎台集会所，正面は水道組合事務所
敷地は現在の自治会駐車場（1988：昭和63年）

自治会館が欲しい！

大椎台の水道が市営水道に切り換わったことを契機に、それまで水道にかかりきりになっていた自治会の活動も、ようやく自分たちの環境に目を向けることができるようになった。そうしたなかで、自治会活動の要（かなめ）となる場所・拠点として、自治会館の必要性が高まってきた。

当時、自治会の集会所はもとの建売住宅の販売事務所で、かなり老朽化したプレハブであり、一部屋だけの集会所なので使用も限られていた。

下水道が市への接続を果たしたことで汚水処理場が不要となったこともあり、その跡地に自治会館を建設する案が持ち上がった。

1991（平成3）年4月、自治会館建設検討委員会を設置し、建設資金、建設場所などを検討、答申を自治会長に提出。そして1992（平成4）年4月、総会で建設委員会の設置が決議され、いよいよ自治会館建設が動き出した。



新会館設計内容を検討する建設委員会メンバー
於 旧自治会集会所（1992：平成4年）



大椎台自治会館建築風景（1993：平成5年）



大椎台自治会館竣工式（1994：平成6年2月11日）



完成した大椎台自治会館（1994：平成6年2月12日）

より住みよい街づくりを目指しての自治活動

『自治会館がほしい！』というのは、文化活動の拡大と「高齢化してゆく大椎台で、近くに葬儀のできる会館が欲しい！」という声も反映していた。誰も老い、そしてやがて死を迎える。これは避けがたい現実であるが、その際に、「住み慣れた自分の街で、身近な人達と別れを告げることのできる場所がほしい……」、というのは誰もが持つ偽らざる気持ちではなかっただろうか。

大椎台自治会館は、汚水処理場を解体した後、ポンプ場跡地等管理組合所有の土地を売却して建設資金を調達し、平行して建築設計会社をコンペ方式で選定、建築業者を6社の見積もりから選定し建築されることになった。

検討を始めて約3年、委員27名の努力と情熱、そして住民の支持と協力によって1994(平成6)年1月末、完成した。そしてお披露目の2月12日、忘れられないほどの大雪であった。その日会館玄関は、雪にも関わらず来館者でいつまでも、いつまでも混みあっていた。

心配していた会館利用率は2003(平成15)年末現在、毎月約70%を超える状況で上昇の一途をたどっている。

自治会館の管理

1994(平成6)年4月総会において、大椎台管理組合は解散し、大椎台自治会に一本化した。同時に会館建設委員会も解散。その後の会館管理運営は、2年間の自治会館管理運営委員会を経て新たに自治会に創設された総務部が担当し、その下部組織に「会館施設管理委員会」が発足して、建物及び設備などの管理・保全を担当している。



茶室にも利用出来る和室1・畳間
(1994:平成6年)



ドーム天井からまんべんなく外光が差し込む洋室1・内
(1994:平成6年)

V 生活環境の変化 ～変わり行く土気～

～学校ができた～



大木戸小学校（左：1978・昭和53年 右：1986・昭和61年）

1977(昭和52)年、千葉市立大木戸小学校が市立土気小学校から分離独立し、市内で90番目の小学校として創設された。

それまで通学に様々な問題を抱えていた大椎台の子どもたちにも、ようやく身近に小学校ができたのである。1年～4年生までの10学級335名の児童と教員18名でスタートした。一方、中学校は越智中学校校舎が出来、市立土気中学校より分離独立し、49番目の中学校として創設された。

1, 2年生ともに5学級、404名でのスタートであった。

当初は制服もなかったが、大木戸小学校同様、年を追うごとに充実し、それとともに生徒の活動面においても、各種コンクール、競技会で優秀な成績を収める等、成長していった。

～変貌をとげる街～

1985(昭和60)年に至り未曾有の景気の湧き上がりで、地価の値上がりは留まるところを知らぬように見えた。

ここ土気地区も、冒頭の1970年代初頭以上の開発の洗礼を受けるに至り、昨日通っていた道が今日はすでに裏道になっている、といった変化があたりまえのようだった。

そしてバブル崩壊。落ち着きを取り戻した街には平穏が戻った。

土気も念願であった外房線（旧房総東線）の複線化とともに、土気駅の橋上化により、かつては想像もできなかった近代的な都市の風貌を持ち、東京近郊から客人を招いても、臆することなく出迎えられるようになった。都市と緑とが一体化し、訪れる誰もが、「良いところですね」とほめてくれるに違いない。

土気全体で見れば十分な数のショッピング・センター、学校、そして公園。都心からの通勤圏



◀ 総武・横須賀線直通運転記念入場券
(1980：昭和55年)

▼ 土気駅橋上駅舎完成記念オレンジカード
(1986：昭和61年)



となり、治安も比較的安定している……。視野を広げてみれば、このうえない安住の地の観がある。

こうした環境の中でも間近に見てみると、団地内ショッピング・モールの店舗は減少し、『ちょっとした用が足せなく』になっている。多少の距離なら車を使ってすぐ行けるという若い人、あなたに何でもないことが高齢者の方に見ればどうであろうか？

高齢化社会、不況、そして子育ての不安。確かな明日が見えないなかで、何を頼りに生きていこう？

これまで多くの人々の知恵と経験、そして協力によって幾多の困難を乗り越えてきた大椎台の人々は、こうした状況のなかでも、静かにめげることなく果敢に立ち向かってきた。

住民の帰路を照らす街灯も、1990(平成2)年当時のほぼ倍となり、団地内も明るくなった。その増設と維持とに貢献した毎年のブロック委員・自治会役員の活動は、地道ながら決して忘れることができないものである。また、環境の変化とともに増大する団地内の交通量と安全対策、自家用車保有台数の増加につれて日常化する路上駐車問題等、一朝一夕には解決できない問題も浮上してきた。

これらに対して大椎台の住民は、自治会を中心に、防災会・助け合いの会・ときわ会そして子ども会と、世代を超えて協力し合える接点をさがして、ともに前進しようとしている。



開設されたばかりの日生ショッピング・センター
(1973：昭和48年)

Ⅵ 活発な自治活動

時代の移り変わりとともにのどかな農村地帯であった土気地区も、全国的にも目をひくほどの変貌を遂げるようになった。

いわゆる“チバリーヒルズ”といわれる広大な住宅をはじめとするあすみが丘の開発、緑の森工業団地の造成等々である。開発されるにつれて、それにまつわる問題も浮上してきた。

その一方で大椎台に住む人々は、計画的な住宅地として整備された良好な住環境を、安心して暮らせる場所として次の世代に手渡せるように努力して来た。住民それぞれのもつ知識と経験とを生かして、周囲の人々と協力しながら自分たちの問題を解決するために前向きに取り組んできた。



家並みがそろった大椎台。右上方は造成中の現越智はなみずき台。
左側の現あすみが丘はまだ緑(谷津田)である。(1978：昭和53年)

地区計画

地区計画制度とは、土地の細分化等を防止し、良好な住環境を維持するために、都市計画法や建築基準法だけでは不足していた『まちづくりのきめ細かさ』を補うためのもので、住民自身が自分たちの『まち』はどうあるべきか考え、意見・要望等を出しあい、市役所と相談しながら『まちづくりの素案』を作り、市および県の審議会の審査を経て、私たちの『まちづくりのルール』が決定するものである。

～地区計画制度推進委員会～

1993(平成5)年総会で設置された『地区計画制度推進委員会』が千葉市都市計画課、建築指導課の協力を得て、住民への説明会、勉強会、住民アンケートのほか、不在地主の意向調査等もふまえて案を作成、1998(平成10)年12月22日付で、『大椎台地区 地区計画』の条例化がなされた。

大椎台では、住宅地区・利便地区では、二世帯～三世帯同居も可能なように同一敷地内に二戸の長屋・共同住宅建築は可とし、三戸以上のアパート等は規制。また、土地の細分化による環境の悪化を防ぐため、住宅地区の敷地面積の最低限度を140㎡とした。更に、日照・通風・防火および避難路・消火活動路の確保を目的に、住宅地区内および利便地区と住宅地区との隣地境界線から壁面までの距離は0.8m以上離すこととした。大網街道沿いの沿道地区では、パチンコ屋・勝ち馬投票券発売所・カラオケボックス等は建築不可とした。

こうした法的な面が未整備な地区では、住民側が環境を守ろうとする場合、多大なエネルギーをその運動に注ぎ込むことを余儀なくされている。近隣の団地ではパチンコ店の建設に当り、大きな反対運動が起きたことは記憶に新しいところである。

大椎台では法的整備により、もはや住民が望まない建築物がたてようとしても、その都度住民がエネルギーを使って反対運動をすることなく、建築確認申請段階で許可されなくなった。

～自治会法人化検討委員会～

自治会館完成にめどがつく頃、今度は会館の登記の問題が浮かんでくることとなった。

これまで自治会・町内会は法的には『権利能力なき集団』と位置づけられ、団体名義では不動産登記ができなかつたため旧集会所の土地等は、3年毎に管理組合理事全員の個人名義で登記更新されていた。

このような個人名義での登記は、名義人の転居や死亡などにより自治会等の構成員でなくなった場合に、名義の変更や相続等の問題を生じかねない。しかし、地方自治法の一部が改正され、一定の要件のもとに自治会、町内会にも法人格が与えられ、不動産の所有権等の登記名義人となることができるようになった。

これを受けて、1992(平成4)年度に法人化検討委員会が組織された。そして緑区役所地域振興課の指導のもと、規約も吟味し、1993(平成5)年10月臨時総会において自治会の法人化を可決承認、12月に千葉市長より、『地縁による団体としての法人』の認可を受けるに至り、ここに自治会が土地、自治会館等の財産の所有権の登記名義人となることができるようになった。1994(平成6)年3月11日名義変更登記手続きを完了した。

～納税貯蓄組合～

会館建設委員会、各種専門委員会の華やかな活動に隠れるような納税貯蓄組合活動であるが、1975(昭和50)年に発足して、以来28年間各活動グループの先駆けとなっている。

市税の納付期限内納付を広め、それに伴う補助金で自治会活動に貢献している。千葉市で最も大きな組合といえるほどに成長するとともに、その活動は納付率の上昇に貢献し、2002(平成14)

年度千葉県納税貯蓄組合連合会定期総会において優良納税貯蓄組合として表彰された。
夏祭りにおける抽選会は恒例となり、無くてはならぬものとして、定着している。



女性会員も放水訓練に参加（2002：平成14年）

組織体の必要性等を考慮して、これらの機能を持つ新組織と具体的な活動計画を提案した。役員会は、これを受けて2001(平成13)年に自治会全体を4班に分けて、班長を中心に被害状況の把握、消火、救護活動を本部の救援を受けつつ自主的に行うことになった。本部には、情報広報部、防火部、救出救護部、避難誘導部、物資調達部を設けて行う新しい組織が発足した。なお、各部の具体的活動をまとめた詳細な『自主防災組織行動マニュアル』20ページを委員が手作りで作成、2003(平成15年3月)全戸配布した。



救命救急訓練（2001：平成13年8月）



千葉消防局土気出張所・千葉市防災普及公社の指導援助により毎年1回、第1公園に於いて消火器使用消火訓練、小型ポンプ操作法、起震車体験、炊き出し（男子厨房に入る会の応援を得て行う炊き出し「おにぎり」「豚汁」は好評）その他、防災講演会、救急救護法講習会等活动は多岐にわたっている。



「剪定用具を揃えてお待ちしています。」
助け合いの会 関口会長（2003：平成15年）

～助け合いの会～

自治会会員の高齢化に対応して、介護法でカバーしきれない分野をボランティア活動によって助け合う仕組み。掃除、洗濯、買い物、通院手伝い、庭仕事、大工仕事、留守番、犬の散歩、電話コール等々、身体に触れる仕事を除いて、利用を申し込めば会としては協力可能な会員を探し出して対応する体制をとっている。『利用者も仕事の種類により協力者』となるのが本会の特長である。会員はお互いの自立精神を尊重しつつ、サービス利用者も協力者も、ともに会員となり『助けられたり助けたり』を行っている。平成10年に発足して2003(平成15)年度会員数90名となっている。



「お元気ですか。」現在すっかり定着し、活動の中心となっている、毎朝の電話コール。（2000：平成12年）

Ⅶ 公害防止活動

電波障害

水道問題が解決しつつある時、大椎台をはじめ、大木戸台、高津戸町、大高町、小食土町が、近隣に建設中のサンヴェール・マンションによるテレビの電波障害を受けることがわかった。

自治会では土気西部環境整備推進同盟とともに建築主と折衝を重ね、1991(平成3)年4月、各地区の代表者で『土気西地区電波障害対策協議会』(略称・電対協)を設立、『テレビ受信共同施設維持管理協定』を結ぶことになった。

更にあすみが丘に建設中の高層住宅による電波障害が予測され、二つの『電対協』を組織して対応することになったが、無事アンテナ線が445戸へ敷設されたことで電対協は解散、地域環境委

員会に引き継いだ。

1999(平成11)年3月、東急建設(株)より、住宅建設のため、従来、あすみが丘町内に施設していたテレビ・アンテナ塔および共同受信搬送装置を当自治会敷地内に移設したいとの申し入れがあり、審議の結果、自治会館裏に移設することになった。現在もこのアンテナ塔がテレビ電波を受信し、電波障害対象地域の各戸に配信している。



こどもたちも参加しての集団回収活動・第2公園
(1994：平成6年7月)

～地域環境委員会～

1990(平成2)年12月の自治会による「生活環境アンケート」をもとに、3つの専門委員会の設置が1991(平成3)年の定期総会で認められたが、その一つが地域環境委員会である。(他に、自治会館建設検討委員会、ゴミ問題委員会)

当時、団地内に狭小な一戸建て住宅計画や近隣に高層マンション計画が相次ぎ、居住環境の悪化が心配されたことから、日常生活の安全・健康・快適環境の確保のため、強い関心や専門

的な知見のある住民が主体となって住環境問題に継続的に取り組むことを目的に設置された。

当初は、高層マンション建設に伴う電波障害問題と土地の細部化などを防止するための地区計画制度の勉強会を中心に取り組んだ。その後、地区計画制度については、本格的な取り組みを行うため、「地区計画制度推進委員会」に取り組みの場が移された。(なお、地区計画制度の取組みについては14頁を参照いただきたい。)

その後、電波障害対策とともに閉店舗の生ゴミ放置問題、深夜カラオケ騒音問題、「さわやか通り」の車交通問題、大椎第1・第3公園への除草剤散布問題などの解決に取組み、土気地域全体の環境問題にも近隣の各町内会・自治会と連携して取り組んできた。

2002(平成14)年11月には、千葉市より各区1地区ずつ指定される「地域型生ゴミリサイクルモデル事業」を行うモデル地区に緑区で当地区が指定された。現在、地域環境委員会が窓口となり、NPO法人ビオスの会の指導の下、第2公園に生ゴミ処理機が設置され、堆肥化の実験が行われている[協力家庭57戸、2004(平成16)年1月現在]。循環型社会に向けた足元からの取組みの一つである。



生ゴミ処理機 (2003：平成15年4月)

1992(平成4)年発足し、「捨てればゴミ、使

えば資源」をモットーに自治会の集団回収を定着させてきた「ごみ専門委員会」は、1995(平成7)年、地域環境委員会と合併し、ごみ専門部会として現在まで集団回収の一層の推進に向けた活動を続けている。

2001(平成13)年には、「ペットと人間の共生社会」への第一歩として、ペット部会が地域環境委員会の中に設置された。ペットの飼い主に対するマナーPRや捨て猫・捨て犬対策などの活動を精力的に行っている。



ウンチクリーン活動（ペット部会）

～近隣地域との連携・土気環境安全協議会～

1992(平成4)年末から土気緑の森工業団地の遺伝子組換え研究施設の建設を巡って、その研究業務に伴う未知の遺伝子組換え菌等の自然界に漏出する公害について、住民の間に大きな不安が広がった。その未然防止と住民自らの安全性の確認を求める取組みが土気地域の広範な住民によって取り組まれた。



事業開始に当り安全性確認を求める地域の奥さん達
(1994：平成7年4月)

千葉市、事業者（昭和電工）、地域住民の3者による公開意見交換会があすみが丘プラザ体育館で計3回開催され、第1回目〔1993(平成5)年8月〕は400名を超える大集会となった。千葉市議会への陳情署名活動も2回（署名数はそれぞれ11,000、23,000）取り組み、こうした取組みの結果、1994(平成6)年6月に千葉市は「先端技術環境保全対策指針」を施行し、遺伝子組換え研究施設などの事業者にも周辺住民への事前説明や厳密な安全管理対策を求めた。

また、同年12月には当自治会を含む土気地域の5つの町内会・自治会と事業者の間で、千葉市立会いのもと、「環境安全協定」が締結された。以来、この協定に基づき、年1回、事業者と町内自治会との間で定期的に「環境安全協議会」が開催され、回数もすでに10回を数える。

研究施設の過去1年間の安全管理実施状況の確認、関係書類の閲覧、所内の立ち入り調査などを行い事業者に対し率直な指摘と意見交換を行っている。なお、当自治会では地域環境委員会が対応している。

この協定締結と同時に、土気地域の環境問題全体に協力して取り組もうと協定締結に参加した町内会・自治会と地域の市民団体により1994(平成6)年12月、土気環境安全協議会が設立された。工業団地に進出した事業者の協力を得て各事業所の見学会の開催のみならず、工業団地隣接地の野焼き問題、村田川河川改修問題、土気東地区開発に伴う環境保全問題、残土・産業廃棄物問題など土気地域の様々な問題について行政との意見交換・要望、シンポジウムの開催、現地調査などを行ってきた。

VIII 文化活動



大椎台つばさ会出演
大椎台自治会館竣工式（1994：平成6年2月11日）

大椎台自治会の特色は、自治活動の活発さと文化活動のレベルの高さであろう。その2大イベントとして夏の『納涼大会』と冬の『文化祭』がある。これらは毎年の役員が企画・演出・舞台設定等に当たるのだが困難な場面に多々遭遇する。その度毎に新役員の団結力が強まり『やる気』と『結束力』が生まれる。もし、夏祭りや文化祭がなかったら、今日の大椎台はなかったと言っても過言ではない。自治会館を活動の場とするサークル活動もその詳細を紹介するには紙面が足りないほどクラブ数が多く活発である。

～納涼大会～

毎年団地の中央に位置する第2公園で開催される。第1回は子供向けの映画会であった。2回目からは盆踊りに変わった。そして手作り樽御輿と山車による子供たちの参加があり、やがて御輿も本格的なものを購入した。何よりの楽しみは文化部が主催（各部協力）する昔ながらの屋台で、



『この街が好き大椎台』の看板のもとでの納涼大会（2000：平成12年）

焼きそば・ビール・ジュース・ホットドック・海苔巻き・おこわ・唐揚げが人気の中心だ。がま口の中の小銭を数えながら子供たちが算段している風景も昔ながら微笑ましい。

自治会の三角くじと納税貯蓄組合の抽選会も魅力の一つ。しかし盆踊りの輪が広がる頃、浴衣姿の女性や子供たちが祭りの主役になる。祭りの夜の盛り上げ役として『つばさ会』の和太鼓があった。自治会館創設の祝宴に華をそえて



汗だくで取組む役員さん

いるのだから、その歴史は長い。残念ながら平成14年、少子化の波を受けて小中学生の減少から解散のやむなきに至った。ここに数行だがその素晴らしい記録を記しておきたい。

～文化祭～

毎年2月、会館の創設記念日の11日前後に会館をフルに利用して文化祭が開催される。これも文化部主催で各サークルの一年間の研鑽・作品等が披露される。民舞・ダンス・大正琴などの演奏や木彫り、パンフラワー、編み物、書道、油絵等の作品が各部から会館狭しと展示される。

また、餅つき、焼き鳥・豚汁は無料とあって子供たちに大人気である。



～サークル活動～

冷暖房完備，大小洋室・和室の4部屋が利用できることから，開館翌年からクラブ数が増加した。小中学生からなる「こども会」，60歳以上の「ときわ会」をはじめとして，日舞の「舞菊乃会」を改め「菊奈美会」，民舞の「珠藤会」，「太極拳」，気功の「気功クラブ」，「虹の会」。ストレッチ体操の「ロビズ会」，お茶の「和敬会」。「大椎句会」，「囲碁」，「和裁クラブ」，洋裁の「あすみ会」，編み物の「バイアスクラブ」，木彫りの「ARF」，パンフラワーの「クリスタル」，トールペインティングの「アトリエロココローズ」，大正琴の「あやめ会」，「ときわ会書道部」。その他屋外スポーツの「グランドゴルフ」，少年野球の「土気グリーンウェーブ」がある。また，酒好き肴好きが集まった「男子厨房に入る会（男厨会）」，大人の野球チーム「ピンクパンサー」は夏祭り・文化祭でも活躍している。

Ⅸ 明日の大椎台 ～子供たちのふるさとへ～

～大椎台の未来～

大椎台自治会は、発足してから今日まで30年間にわたり、住民の熱意と努力によって、多くの難問を解決し、素晴らしい発展を遂げてきた。私たちは、30年の歩みを重く受け止め、この街の繁栄を次の世代へ引き継いでいく責任があると感じている。

ここに生まれ、暮らす子どもたちのふるさととして、『この街が好き』という言葉にふさわしい街づくりのためには、安心と安全の環境（住宅・生活・自然）を整え、人々を呼びこむことが必要である。お互いに顔を合わせば笑顔で挨拶を交わし、優しいあるいは励ましの言葉をかけることができる。

幸いにして、この大椎台には夏祭り（納涼大会）も各サークルの活動の場（自治会館）も発表の場（文化祭）もある。



ピカピカの一年生。明日を担う子ども達。現在27歳。
(1984：昭和59年4月)

最近、様々な犯罪が、ごく平凡な場所で当たり前のように起きるようになり、当団地及び近隣団地で『空き巣』事件が連続的に発生している。これに対して自然発生的にボランティア行動による『防犯パトロール』が開始された。隣近所の日々のおつきあいの中から、このような積極的な行動が生まれることは、素晴らしいことで明日の大椎台に期待がもてる。

大椎台の生い立ち、歩みをふりかえり、そして今後を想うとき、そんなあたりまえのことに期待をしてしまう。これまで自治会にかかわってきた

人々と地域の人々の知恵と力を結集することで、あたりまえのように、これほどの偉業を成し遂げたのだから……。

移り住んだ大人たちもここで年月を重ね、生まれた子どもたちも、多くが大人になった。

今の子どもたちの瞳に大椎台はどう映っているだろうか？ ここに住む私たちの姿を、どう捉えているのだろうか。

私たちは、この街をここで生まれた子どもたちの『ふるさと』として、そして移り住んで来た私たちにとっても、生まれ故郷につぐ『第二のふるさと』として考え、大椎台の歴史を振り返ってきた。

この記録が、過去に尽くしてくれた方々の労苦を多少なりともしのぶすべとなり、これからの大椎台の発展にかかわる人たちの活動の一助になれば幸いである。

大椎台自治会歴代会長・副会長

(平成15年9月調べ)

在任年度	年代	会 長	副会長 (男)	副会長 (女)
昭和 48 年度	初代	故 中村 俊雄	井上 徳次	任 命 なし
49	2	半根 郁夫	林 喜隆	坂本 嬉子
50	3	故 大塚 則久	砂子 信一郎	故 大森 君代
51	4	故 萩原 利平	佐藤 文雄	鈴田 富貴子
52	5	小宮 山修一	故西村 康生	黒子 玲子
53	6	大根 一夫	野口 芳宣	原 照美
54	7	角田 紀郎	下平 二一	中坪 紀子
55	8	山田 康貴	佐藤 隆	大久保昌子
56	9	青木 正太郎	鹿島 末義	故 島本喜久子
57	10	故 熊谷重治郎	今溝 重	北尾多枝子
58	11	故 小林栄三郎	故 小林 徹漢	岩波寿美子
59	12	中村 慶一	葛田 隆	石井千鶴子
60	13	橘谷 英武	小野田道恭	小宮登美子
61	14	川村 知二	故竹内 良三	宮沢 悦子
62	15	千嶋 貢	岩崎 捷二	伊藤 博美
63	16	佐藤 昌	杉本 一彦	板谷 悠子
平成元年度	17	小川 隆義	杉原 光雄	大竹 凱子
2	18	竹内 敏明	川本 幸立	太田美智子
3	19	針木 明芳	須田 和明	大楽ふみ子
4	20	塚本 忠	若林 寛治	浅井喜久江
5	21	元島 和義	青木 威夫	原 照美
6	22	石岡 成男	諏訪 克博	酒井真理子
7	23	飯淵 忠彦	飯田 宣明	江幡 朝子
8	24	白鳥 隆幸	楠林 利和	田辺美枝子
9	25	井上 隆治	小松 俊彦	土子眞知子
10	26	松本 憲道	田子 季治	押尾 弘子
11	27	穴山 清作	高橋 博正	小林 純子
12	28	南雲 伸	狩野 拓史	坂本 清子
13	29	青木 衛	斎藤 正直	中崎 加代
14	30	坂本 隼一	石川 忠雄	福岡久美子
15	31	降旗 匡雄	諏訪 克博	原田 雅子

大椎台を支えて来られた方々

(設立順, 敬称略)

大椎台30年の歴史を見て来ると、大変多くの方々が色々な形で努力を積んで来られました。いや、自治会
会員全員の方が協力を惜しまず、この街を愛して毎日を生きてこられました。

その中でも皆さんの先頭に立って、各種事業を推進して来られた方のお名前は、末永く記憶に残したく、こ
こに纏めて記させていただきます。紙面の都合もあり、幹部クラスが中心となりましたがお許し願います。

大椎台自治会設立発起人

(S.48～49)

井上 徳次 吉川 恭平 中村 俊雄 松瀬 好雄 木野 克己 樋口 典勝

納税貯蓄組合

(S50.～現在)

故大森 重雄 阿部 友子 板谷 悠子 大久保昌子 橋谷 英武 佐藤 昌 杉本 一彦
関口 貢 船木 守義 古内よし子

水道組合 [旧専用上下水道管理を含む]

(S.58～H.3.3)

石井千鶴子 板谷 悠子 今井 武司 小野田道恭 小川 隆 大竹 凱子 太田美智子
川本 幸立 川村 知二 橋谷 英武 葛田 隆 小宮山 滋 佐藤 昌 渋谷 妙子
須田 和明 杉原 光雄 杉本 一彦 高森 斉 竹内 敏明 大楽ふみ子 千嶋 貢
南雲 伸 針木 明芳 故松中善太郎 故山口光三郎

(協力者) 田辺電器サービス [田辺 孝志] 三水エンバイロテック(株) [白水 清一]

大嶋機工(株) (株)オーヤラックス 宮原興業 [川口 章]

千葉市水道局 千葉市南部土木事務所 石井興業(株) 末木水道(株) (有)加藤設備

(有)笹尾水道工務店 (株)佐藤設備 (有)関管工 東総設備(株) 豊栄設備(有)

会館建設委員会

(H.3～H.6)

荒木 松雄 阿部 友子 石井千鶴子 板谷 悠子 小野田道恭 大久保昌子 川本 幸立
川村 知二 河田 陽子 笠井 秀子 橋谷 英武 木須きよ子 菊池 隆 佐藤 昌
杉本 一彦 須田 和明 関口謙次郎 高森 斉 竹内 敏明 高橋 政晴 高森 洋子
塚本 忠 中野 伸也 船木 守義 故山口光三郎 若林 寛治 渡辺 正

(協力者) S D建築設計事務所 内野屋工務店

地域環境委員会

(H.3～現在)

青木 威夫 川崎 利男 川本 幸立 川本 泉美 葛田 隆 小松 俊彦 小林 国雄
近藤 秀登 佐藤 義弘 笹倉 邦康 須田 和明 竹内 敏明 福嶋 邦子 萬里小路晃子
渡辺 和男

ゴミ専門部会

(H.3～現在)

浅井喜久江 甘利 良子 柿栖みや子 川崎 利男 河田 陽子 木須きよ子 小松 俊彦
佐藤 昌 芝原 賢二 竹内 敏明 船木 守義 古川倭文子

ペット部会

(H.13～現在)

秋元 理美 小松 俊彦 五味 章子 島田美砂子 滋野 実 高森 洋子 千頭 薫
長谷川 昌 本名 愛子 萬里小路晃子 吉田 和子

テレビ電波障害対策委員会

(H3.10～H.6)

川崎 利男 川本 幸立 葛田 隆 芝原 賢二 須田 和明 竹内 敏明 塚本 忠
鶴岡 秀次 長谷川栄一 針木 昭芳 若林 寛

(協力者) 土気西部環境整備推進同盟: 高梨 政雄会長 笹川 五郎

田中 昭二事務局 片岡 歩事務局長

大木戸台自治会元会長 神永 貴史氏

・サンヴェール担当電対協

小高喜久夫 川崎 利男 芝原 賢二 長谷川栄一
 (協力者) テレコム通信 大内 清隆氏

・あすみが丘担当電対協

大楽 英夫 川本 幸立 須田 和明 高森 斉 竹内 敏明
 (協力者) 住友電工 大森 栄一氏

土気環境安全協議会関係(昭和電工環境安全協議会関係) (H.4～現在)

飯淵 忠彦 石岡 成男 川崎 利男 川本 幸立 小松 俊彦 坂本 隼一 芝原 賢二
 須田 和明 塚本 忠 松本 憲道 葛田 隆 佐藤 義弘
 (協力者) 富田虎之助氏 小島 克己氏 五十川孝臣氏 毛利 保氏
 片岡 正之氏 片岡 吉之氏 須藤 俊氏
 野崎 哲氏 片岡規矩雄氏 鎗田 博氏
 阿部 好郎氏 八島 尚樹氏 青木 秀雄氏
 腕木 武男氏 高山斉一郎氏

法人化委員会 (H.4～5)

青木 威夫 大川 俊蔵 境 雅信 竹内 敏明 南雲公太郎 原 照美 長谷川 武
 元島 和義
 (協力者) 千葉県地域振興課

地区計画制度 (H.5～10)

青木 威夫 上野 善央 小倉 又寿 川本 幸立 鏡 軍一 葛田 隆 楠林 利和
 佐藤 昌 故五月女博 杉本 一彦 須田 和明 竹内 敏明 野口 文子

会館施設管理運営委員会 (H.7～現在)

磯 正己 上野 善央 川本 幸立 川井 俊正 佐藤 昌 須田 和明 船木 守義
 三十尾洋一郎

下水道整備 (H.7～H.8)

飯淵 忠彦 川井 俊正 橘谷 英武 佐藤 昌
 (協力者) 末木水道(株) 千葉県南部土木事務所

防 災 会 (H.13～現在)

青木 衛 青野 晃久 岩田 淳一 石下谷巴幸 板谷 悠子 上野 善央 大久保昌子
 大町 英彦 太田 幸雄 川崎 利男 川井 寿江 川崎 研一 川本 幸立 狩野 拓史
 橘谷 英武 近藤 秀登 小久保文夫 古角 昭子 小松 俊彦 小林 義和 佐藤 昌
 佐藤 義弘 坂本 隼一 坂本 清子 斎藤 正直 須田 和明 杉本 一彦 関口謙次郎
 竹内 敏明 土屋 輝夫 南雲 伸 夏目 博司 長谷川栄一 林 英輔 藤倉あつ子
 船木 守義 二見 節子 降旗 匡雄 吉野 馨
 (協力者) 千葉県消防局土気出張所 千葉県防災普及公社

助け合いの会 (H.11.4～現在)

相沢多恵子 板谷 悠子 大町 英彦 大久保昌子 小山田 博 川崎 利男 橘谷 英武
 葛田 隆 久保田季廣 近藤 秀登 佐藤 昌 佐藤 義弘 関口謙次郎 千野 葉子
 土屋 輝夫 徳永 功 中嶋 良恵 南雲公太郎 元島 和義 藤倉あつ子 古川倭文子
 吉田 和子

大椎台自治会略年表

1971(S46)		大久保清事件
1月	昭和40年代の初めより榊竹中工務店と住生土地㈱の共同開発。造成工事は竹中土木㈱により大椎町の一角が通称「日生団地」として完成。団地中央通り（現さわやか通り）を境目にして大網寄り（一部を除く）が住生土地㈱所有地、千葉側が日生土地㈱の所有地として土地所有権登記がなされ土地付き住宅の建設が始まる。	
8月	住生土地㈱が24戸の土地付き建売り住宅の販売開始。	
10月	上記住宅の入居始まる。	
1972(S47)		7月15日房総東線を「外房線」、房総西線を「内房線」と改称。 元日本兵横井庄一氏をグアム島で発見。浅間山荘事件
9月	日生土地㈱販売部が分離独立。星和住宅㈱となりの建売の販売と土地の分譲を開始。	
1973(S48)		8月 金大中氏拉致事件 オイルショック
4月	団地の世帯数89世帯となり、上下水道、ガス、電気等の欠陥改善、大網街道の歩道、信号機の設置、バスの導入等住環境の改善整備を訴える体制を整えるべく次の6名の発起人により自治会創設が提唱される。 井上徳次 吉川恭平 中村俊雄 松瀬好雄 木野克己 樋口典勝（敬称略）	
5月6日	発起人の承認を得て、自治会設立準備委員を選出、24名の委員が決まり、続いて『日生住宅分譲地入居者自治会規約』の暫定規約を作成。	
5月26日	自治会役員人選が行われ会長1、副会長1、会計監査1、会計1、交通通信号対策部2、管理組合対策部5、生活対策部3、婦人委員10名が決定。	
7月	第2公園で映画会開催。（納涼大会のはしり）	
1974(S49)		12月 土気～千葉間複線化 ルバング島から小野田さん帰国
4月20日	48年度総会資料（新規約他）を全自治会員に配布。	
27日	「日生とけ分譲地事務所」にて第1回定時総会開催、新役員選出。	
5月12日	町内会長会議に於いて『土気地区町内自治会連絡協議会』加盟が認められ協議会で16番目、千葉市内で609番目の自治会となる。	
7月	第一回納涼大会 盆踊り開催。樽御興製作。	
9月30日	自治会に相応しい名称の募集に当たり、選考委員6名を設けブロック委員を通じ募集の結果、86件の応募が有り慎重に審議の結果『大椎台』が選定され、紙上総会に於いて226名の賛成を得て、正式に『大椎台自治会』に決定した。	
11月23日	午前11時連絡協議会長を初め各町内会長など10名の来賓を迎え大椎台自治会命名披露宴を開催、ここに大椎台自治会が創設された。命名応募に入選された8ブロックの原 準之助さんに記念品が贈られた。	
1975(S50)		4月サイゴン陥落、ベトナム戦争終結。 昭和の森一部オープン
5月	大椎台納税貯蓄組合が設立される。固定資産税等の市税が円滑に納付されるよう期限内納付や口座引き落としに奨励策を取るもので、初代組合長は自治会長の 大塚則久氏が就任。51年に大森重雄氏に引き継がれた。	

1978(S53)		成田空港開港
7月1日	千葉中央バス、団地内乗り入れ開通式挙行。	
1979(S54)		
	粗大ゴミ・ステーション収集後の清掃、並びに公園の清掃を厚生部で実施していたが、各ブロックの当番制での清掃に切り替える。	
1983(S58)		土気南地区の区画整理事業開始。大型宅地開発の口火を切る。あすみが丘誕生。
10月	戸数、人口の増加と共に1号井戸(19ブロック)の枯渇が始まる。	4月 東京ディズニーランドオープン 9月 領空侵犯の大韓航空機をソ連機が撃墜 3月 江崎グリコ社長誘拐グリコ・森永事件
1984(S59)		
3月	『上水道の現状について』全戸配布。	
1985(S60)		日航機御巣鷹山に墜落 死者520名
8月	58年度以降の管理組合役員と技術関係者が水道問題につき打ち合わせ。	
1986(S61)		4月 チェルノブイリ原発事故 6月 千葉ポートタワーオープン 秋に木造瓦葺きの旧土気駅舎は橋上駅となり、南北自由通路完成
2月	管理組合臨時総会開催。4号井戸掘削、上下水道対策委員会設置、水道料値上決定。	
1987(S62)		国鉄分割民営化JRに
11月	自治会、管理組合、上下水道対策委員会臨時総会開催。(専用水道廃止と市営水道に切り替え、水道布設組合設立決定)	
1988(S63)		3月 千葉都市モノレール開業
1月	布設組合ニュース(後に水道組合ニュースと改題)第1号発行。	
2月	『市営水道に切り替え』への同意書提出方依頼。(ニュース第2号)	
7月	工事費負担金徴収開始(ニュース第4号)。同意書未提出者に督促状発信。	
12月	自治会所有土地全部を大椎台自治会理事全員の名義に変更。(自治会の法人化未了のため)	
1989(H元)		1月 昭和天皇崩御 11月 東独、国境解放「ベルリンの壁」崩壊
4月	『大椎台水道組合』(組合長 橋谷英武)設立承認になる。宅内工事始まる。(10月まで)	
7月	下水道管が市下水道管に接続。	
12月	市水道本管工事開始。(2年10月まで)	
1990(H2)		東西ドイツ統一 礼宮さま・紀子さま結婚の儀
2月	団地北部メイン道路両側数十戸に仮設配管。これにより初めて市水入る。	
11月	団地全体に市水導入完了。 サンヴェールマンションによるTV電波障害問題が発生、『土気西部環境整備推進同盟』の応援を得て、マンションの所有者である大和土地建物㈱とテレビ受信障害改善対策に関する覚書を交換、その後『テレビ受信共同施設維持管理協定』を大和土地建物㈱と各自治会・町内会で結ぶ。	

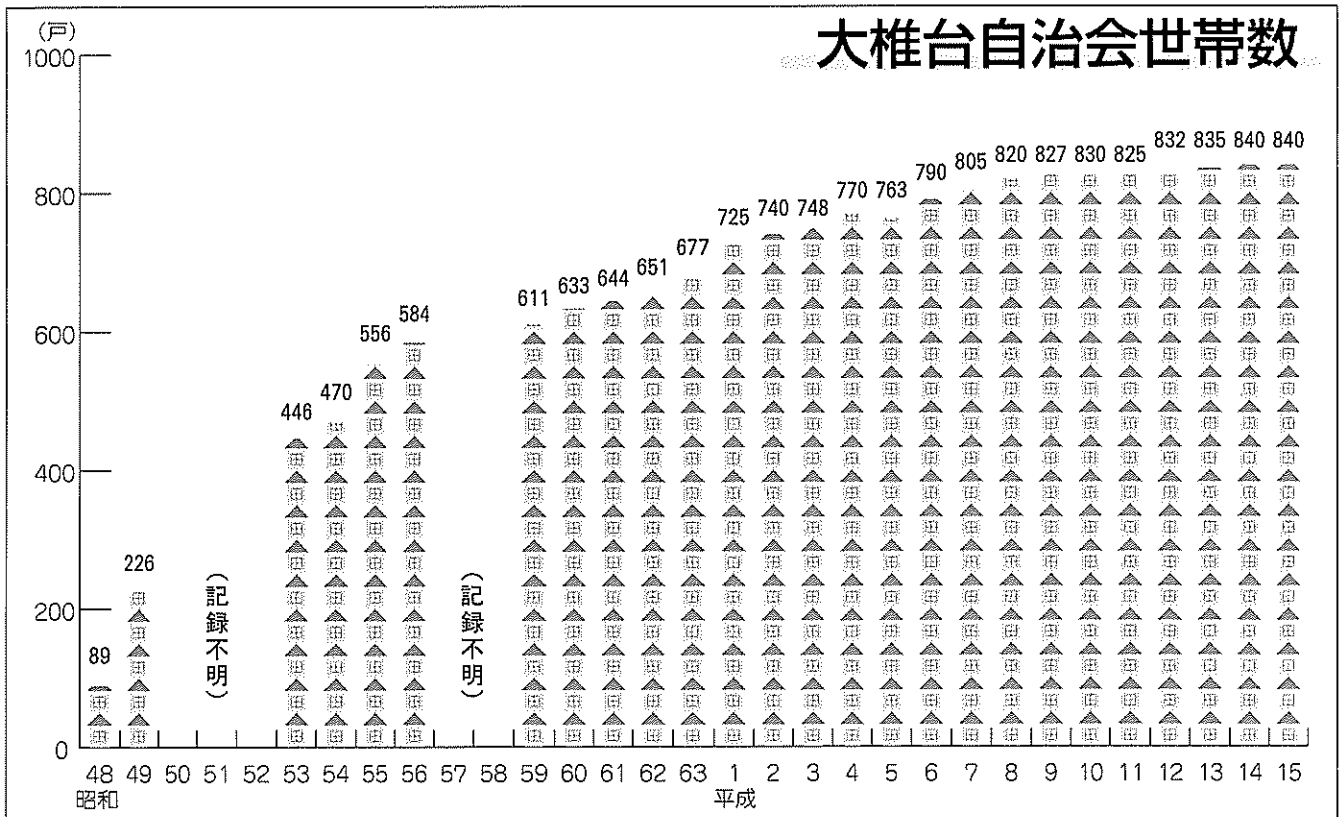
1991(H 3)	<p>3月 上水道全工事完了、道路舗装完了。(3/18検査合格)</p> <p>4月 『大椎台自治会館建設検討』『地域環境』『ゴミ問題』の3委員会の設置承認になる。</p> <p>5月 水道工事負担金残金、取り出し管1本につき12万円を返金。</p> <p>5月17日 「大椎台水道竣工式」を花沢会館にて挙げる。</p> <p>8月 第1回 会館建設検討委員会を開催。</p> <p>10月 関係町内会が連絡を持ち『土気西地区電波障害対策協議会』を設立、電波障害の調査を実施、時を同じくして「あすみが丘」に建設中の高層住宅にも電波障害の発生が予想される旨、東急建設より伝えられ、『テレコム通信』と『住友電工』に対しそれぞれ電波障害対策協議会(電対協)を組織して対応。</p>	<p>1月湾岸戦争</p> <p>12月ソ連崩壊</p>
1992(H 4)	<p>3月 「自治会館建設検討委員会答申書」を自治会長に提出。</p> <p>4月12日 大椎台自治会第20回定期総会に於いて自治会館建設が承認になる。 『自治会館建設検討委員会』を発展的に解消、『自治会館建設委員会』(委員長佐藤 昌)設置される。</p> <p>5月2日 「建設委員会ニュース」第1号発行(10号建設完了まで継続)。</p> <p>6月28日 『あすみが丘ガーデンコートTV電波障害住民説明会』開催される。</p> <p>9月 会館建設の設計会社をコンペ方式で選定、4社中、委員全員の合意で『SD建築設計事務所』に決定。</p>	<p>千葉市が全国12番目の政令都市としてスタート</p>
1993(H 5)	<p>3月6日 サンヴェールマンションとTV電波障害対策について覚書交換。</p> <p>4月 汚水処理場の解体工事始まる。 総会で「地区計画制度推進委員会」設置承認。</p> <p>6月 会館建築業者候補6社中「内野屋工務店」を選び、請負契約締結。</p> <p>7月 会館管理運営グループ第1回会合、完成後の管理運営につき検討。</p> <p>8月 あすみが丘プラザ体育館で地域住民・昭電研究所・千葉市による公開質疑応答集会開催される。住民430名出席の大集会となる。</p> <p>10月 会館、上棟式を挙げる、コンクリート枠外れ、ドームの赤い鉄骨が目立つ。 臨時総会。自治会の法人化可決承認。</p> <p>12月 大椎台自治会の法人化の許可あり。</p>	<p>5月あすみが丘プラザオープン 皇太子さま・雅子さま結婚の儀</p>
1994(H 6)	<p>1月31日 大椎台自治会館完成、自治会に引き渡される。</p> <p>2月11日 大椎台自治会館竣工式を挙げる。翌12日祝賀会開催。</p> <p>3月11日 大椎台自治会の法人登記完了。</p> <p>4月17日 総会に於いて、自治会の法人化を受け、大椎台管理組合解散し、自治会に業務引継。</p> <p>11月 近隣5自治会町内会(大木戸台・千葉東角栄・大木戸町・越智町)により『土気環境安全協議会』結成、発足。</p> <p>12月 千葉市 立会いの下、昭和電工株総合研究所と『環境安全協定書』に調印。</p>	
1995(H 7)	<p>2月 『協定書』にもとづき昭電との協議会実施。研究所内の巡回と書類審査。 以降毎年2月に実施。</p> <p>4月9日 平成6年度自治会定期総会において木下団地を当団地に編入が決議され、64ブロックとなる。</p> <p>6月 下水道対策委員会結成。</p>	<p>阪神大震災、地下鉄サリン事件</p>

7月	子供御輿購入。
10月	下水道管誤接続家庭を対象に説明会開催。(市下水道設計課による)
7月	スナック・深夜カラオケ騒音問題発生。千葉市と協力で解決する。
1996(H 8)	
10月	下水道誤接続改修工事終了。検査合格。
1998(H 10)	
3月8日	大椎台自治会館にて『大椎台地区 地区計画条例化説明会』開催。
4月17日	千葉市告示第155号により『大椎台地区地区計画』決定の告示。
10月11日	団地内相互扶助を目的のボランティア団体『大椎台助け合いの会』が約1年間の準備の上、設立総会を開催。
12月22日	地区計画の条例化。
1999(H 11)	
3月	T V電波障害防止の共同アンテナを自治会館の敷地内に移設。
4月	自治会館外壁のタイル工事。
2000(H 12)	
4月	従来第一第二防災会を解散し、『防災会』新組織で再出発。
2001(H 13)	
7月	自治会館外壁の塗装工事。会館屋上防水塗装工事。
2003(H 15)	
2月	昭和電工との『環境安全協議会』10回目開催。
3月	『防災マニュアル』編集・印刷・製本(防災会による手づくり)。全戸配布。 第2公園に生ゴミ処理機導入。『リサイクルモデル』事業実験開始。

神戸児童連続殺傷事件
東京湾アクアライン開通

和歌山毒入りカレー事件

雪印乳業食中毒事件



編集に携わった方々 (ブロック番号順)

板谷 悠子 2-8	井上 隆治 2-16	大久保昌子 2-18	吉川 恭平 10-17
近藤 秀登 11-1	川崎 利男 12-4	杉本 一彦 14-5	斎藤 正直 18-9
竹内 敏明 20-13	佐藤 昌 21-16	岩 浪 広 美 22-9	元島 和義 26-11
須田 和明 29-2	橘谷 英武 32-3	小野田道恭 36-22	佐藤 義弘 36-17
関口謙次郎 42-11	藤倉あつ子 44-12	川本 幸立 45-5	上野 善央 47-17
降旗 匡雄 48-3	小松 俊彦 52-11	久保田季広 56-3	菊地 博明 59-4
新妻 武 59-8	坂本 隼一 60-13	甘利 新造 60-6	徳永 功 61-1



編集後記

HENSYUUKOHKI

一部の方との雑談から記念誌の発行案が生まれ、最初は少数ページのパンフレットくらいを考えていました。自治会が文化祭の準備を開始、実行委員会が結成されるや団地生え抜きの人から比較的新しい人までなんと28名が編集委員となりました。担当者より原稿を募集し毎日曜日、編集と校正会議を開き、文字どおり『かんかんがくがく』の激論を闘わせ、大変立派なものに纏まりました。

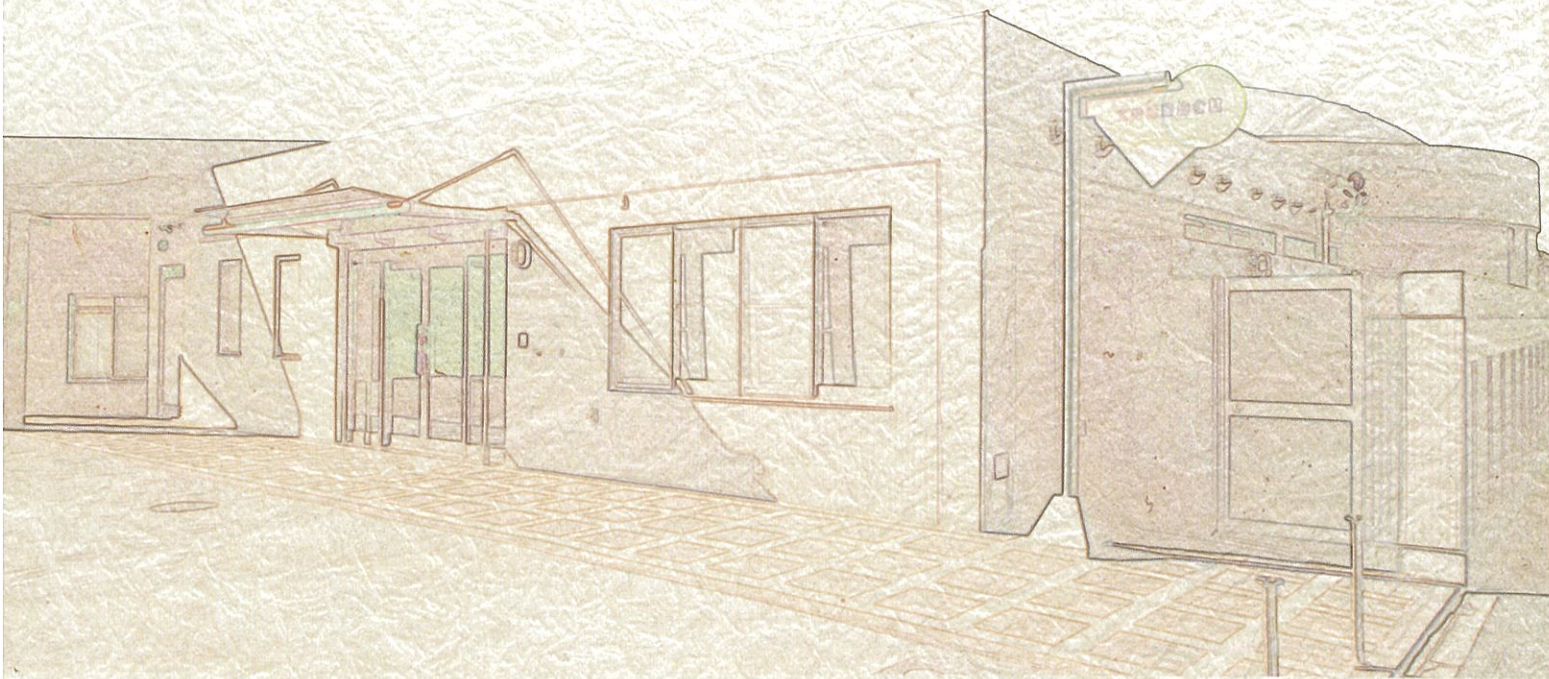
30年間の歴史は短いようでもあります。これまでにいろいろの方々が本職の傍ら自治会の成長発展に心血を注いでこられた集大成が今日の姿であります。今後、時代は進み人が代わろうと、お互いに他人の為になる働きを忘れないで行きたいものです。

最後に原稿を巧みに整えて下さった近藤さん、職人気質で校正・印刷まで采配を振るって下さった川崎さんの努力に対し厚くお礼を申し上げます。

小生の自治会への関わりもこの辺で幕を引き、残りの人生は天に任せ静かに過ごしたいと思っています。

(橘谷 記)





大椎台自治会 30年のあゆみ

発行●大椎台自治会／発行日●平成16年2月
定価●¥1,500(本体¥1,429)

デザイン・印刷・製本●有限会社 宮坂印刷
千葉市稲毛区轟町1-8-16 TEL.043-251-4537

大椎台自治会館

千葉市緑区大椎町1199-262 (〒267-0065)
TEL.043-294-4981 FAX.043-294-8168
火曜日～土曜日 AM9:30～PM3:30